

## 平成26年度第4回青森市子ども・子育て会議（会議概要）

- 1 開催日時 平成26年12月21日（日）10:00～12:00
- 2 開催場所 アピオあおもり 2階 大研修室1
- 3 出席委員 内海隆 会長、赤平怜子 委員、天内博久 委員、五十嵐容子 委員、  
（16名） 一戸倫子 委員、伊藤えり子 委員、今村良司 委員、大村育子 委員、  
佐久田今日子 委員、佐藤えり 委員、清野千世子 委員、戸沼久美 委員、  
中村泰子 委員、橋本歩 委員、宮崎秀一 委員、山田孝憲 委員
- 4 欠席委員 葛西義明 委員、工藤協志 委員、工藤研一 委員、久保田正美 委員  
（4名）
- 5 事務局出席者 健康福祉部長 赤垣敏子、理事次長事務取扱 能代谷潤治、  
子どもしあわせ課長 小倉信三、健康づくり推進課長 浦田浩美、  
浪岡事務所健康福祉課長 山口朋子、  
子どもしあわせ課副参事 西澤哲司、副参事 太田直樹、  
主幹 松島豊、主幹 竹内巧、主査 駒ヶ嶺祐、主査 川村拓、  
主事 山内一潤、主事 工藤拓也

## 6 会議の要旨

- (1) 開会
- (2) 健康福祉部長あいさつ
- (3) 議事

青森市子ども・子育て支援事業計画素案（たたき台）について  
事務局から配付資料について説明。

## ○委員

「第1章 総論」の3ページ「計画の位置づけ」のところで、「青森市子ども総合計画後期計画」の理念や目標等を引き継いでいくというような内容があるが、「青森市子ども総合計画後期計画」の中にある子育て応援隊等の市独自の事業は、今後どうなるのか。

## ○事務局

来年度から新たな総合計画の策定に着手する予定である。子ども・子育て支援に係る様々な市独自の事業については、平成27年度から改めて整理していきたいと考えている。

○委員

「第2章 各論」の11ページのアで、1号認定、2号認定、3号認定の記載があるが、市民の方々に分かりやすいように、説明を追加した方がよいのではないかと。

○事務局

御指摘の点について、表現を工夫して修正したい。

○委員

1号認定、2号認定、3号認定の違いや認定を受ける理由を市で周知していただきたい。

○事務局

パブリックコメントの実施をお知らせする広報あおもりの紙面の中で、工夫できないか検討したい。

○委員

保護者の方にとって、来年度から施設の保育料がいくらになるのかという点が一番の心配事だと思う。他市に比べ、1号認定の保育料が高いのではないかと。

○事務局

保育料については、引き続き検討していかなければならないことであるが、幼稚園の保育料については、保育所等とのバランスや幼稚園等で実際に支払われている金額を考慮して設定した。

○委員

イラスト等を使用して説明すれば、より分かりやすくなるのではないかと。

○委員

妊娠していても働いている方が増えているので、会社内においても子育てに関する情報交換がスムーズにできればよいと思う。

○事務局

商工会議所や市の経済部と協力することが大事だと考えている。

○委員

事業所内託児所にも、市の方から子ども・子育て支援新制度に関する説明をしていただきたい。

○事務局

事業所内保育所を含め、認可外保育事業者に対する子ども・子育て支援新制度についての説明会は既に行っているが、個々の事業者と話し合っただけパンフレットを置かせていただきたいと考えている。

○会長

市民の方も自ら学習していかないと、協働のまちづくりの精神に反することになる。

○委員

「第1章 総論」に、青森市の子ども・子育てに関する現状を踏まえてこの計画が策定されているということを加えた方がよいと思う。

○事務局

その点について、表記を加えたい。

○委員

38ページ、39ページの、幼稚園教諭と保育士の合同研修や認定こども園、幼稚園、保育所と小学校の連携について、重要な部分に踏み込んでいると思った。

○委員

39ページの、「幼稚園教諭、保育士等の研修の充実や施設や事業者に対し適切な指導等を実施していきます」という部分について、これからも力を入れていただきたい。

○事務局

教育・保育の質を高めるためにも、幼稚園や保育所の関係者と連携して研修等を進めていきたいと思う。

○委員

教育・保育の現場では、保育士の人材不足が問題になっているので、幼稚園教諭と保育士の有資格者の確保についても、来年度以降の懸案として扱っていただきたい。

○事務局

委員の方々から御指摘いただいた点を踏まえて計画素案を事務局で修正し、パブリックコメントを実施することになるが、会長と文言の整理を相談した上でパブリックコメントを実施したい。また、パブリックコメントを実施する前に、委員の皆様へ修正したものを配付する。

○会長

その他、何か御意見等はあるか。

○委員

概要があると市民の反応が返ってきやすいと思う。

○事務局

概要があり、読みやすいつくりには必要だと思う。

○委員

放課後児童会の指導員は、1部屋に40人の児童を想定して2人の配置ということであったが、1部屋に20人以下の児童であれば指導員は1人となるのか。

○事務局

基準上は、40人以下の児童であれば、1部屋に対し2人の指導員の配置となる。

○委員

認定区分については本当に分かりにくいので、若い人にも読んでもらえるように、イラストや色分け等を使えばよいと思う。

この事業計画の最初か最後に、青森市の子ども・子育て支援についての目標を入れていただきたい。

○事務局

認定区分については、分かりやすくなるように表記を工夫していきたい。

青森市の子ども・子育て支援についての目標についても、入れ込むことを検討したい。

○委員

説明を分かりやすくするために、吹き出しが有効ではないか。

○委員

内閣府のホームページに、子ども・子育て支援新制度に関するツールがあるので、有効活用していただきたい。

○委員

働く方に対する支援だけでなく、専業主婦に対する支援にも力を入れて、少子化対策に取り組んでいただきたい。

○委員

気になる子どもについて、施設側から保護者には直接言いづらいので、3歳児健診等の時にもう少し深くみてほしい。

○委員

3歳児健診の時に、保健所から保護者の方へアレルギー対策やアレルギーの子どもとの接し方等の指導をしていただきたい。

○事務局

アレルギーのある子どもに対する相談に関しては、3歳児健診の際に個別的な相談にあたっており、保護者から御相談があった際には対応しているが、一人ひとり状況が異なるので、個別的な対応をしなければならないという難しさがある。

○会長

アレルギーに関しては、継続して病院にかからなければいけないということを、保護者に周知していくべきだと思う。

この計画素案については、修正点を委員の皆さんからなるべく早くいただいて、年内に私が処理した上で1月にパブリックコメントを実施したいと思う。

(4) 閉会